



▲みどりの女神としての意気込みをお伝えしました



みどりの 女神が行く!

藤本麗華 (ふじもと れいか)

私が一番好きな新緑の季節です。みどりの女神の活動を通じて、発見や挑戦の毎日が続いています。

今月も刺激的なスタートを切ることが出来ました。

緑の募金強化月間に合わせて 総理官邸へ訪問

4月15日から5月14日まで緑の募金の全国一斉強調月間が始まりました。

私は総理官邸に行き、安倍総理に緑の羽根を着用させて頂きました。

総理からのお話では新国立競技場や小学校など、木材を使っている建物が増えたことを喜ばれていました。総理も木を使うことに着目して下さっていて、これからの日本が益々木の香りに包まれることへの期待が大きく膨らみ、とても楽しみになりました。

私は官邸の雰囲気緊張しながらも、女神の活動で初めて植樹した場所が安倍総理ご出身の山口県だったこととお話し、大変貴重な時間になりました。



▲緑の羽根付の様子

秋田県の林業の現状を見て 植樹の大切さを痛感

秋田県の再造林施策に賛同する林業団体による県への寄付金贈呈式に出席するため、秋田県に行かせて頂きました。

初めての秋田県で驚いたことは、空港から降りて目的地に行くまでのかなり長い時間、伐採されたままの光景が続いたことです。これにはとても驚きました。

お話を聞いてみると「植えたり、作業する人が足りない」とのことでした。

「伐って使って植えて育てる」サイクルは女神になってから、よく耳にするようになりましたが、それを支える「人」の問題の難しさを感じました。

最近では、木材を利用する場所が増えて、建築のほかに木育やアロマなど、温もりや癒しを身近で感じる使い道が注目されています。「使う」が充実してきたことにあわせて、改めて「植える」もしっかりやっていくことが100年先の未来に繋がります。長い間続けられている全国植樹祭、育樹祭

がいかに大切な行事と改めて自分の中でしっかり理解出来来ます。



▲再造林寄付金贈呈式

温かくて元気な人々や木材を活かした さまざまな取り組みに刺激を受ける

翌日、秋田駅での緑の募金活動

は更に気合が入りました。

一緒に募金活動した子供達もとても元気で、

沢山パワーをもらいました。



▲子ども達と一緒に緑の募金活動!

募金を頂いた方々から「寒いのにご苦労様」「秋田にきてくれてありがとう」など沢山の温かいお言葉を頂き嬉しかったです。

秋田駅といえば、ウッドデザイン賞2017にて最優秀賞を受賞しています。県を形どった椅子や、新幹線座席のクッションと椅子をコラボレーションさせたりなど本当に様々な工夫がされており、お洒落で落ち着いた空間が作り出されていました。

自分の目で見えて、感じることは本当に勉強になります。私はこの1年で木材インテリアを作る事も目標にしている、地域ごとの工夫に刺激されてイメージが膨らみ始めています。5月もみどりが気持ちのいい季節が続きます。新たなチャレンジを通じて沢山の事を心身で感じてきます。